

アジェンダ

1. ツールサポート状況

- 現在、4社の方々がツールを利用中
- 現状問合せを受けている件の報告・議論
- 問合せ表を作成の件
 - 仕様の確認など
 - 環境などを記載してもらうテンプレート作成

2. ツールアンケート

- リリース時のアンケート作成→DL後のもの

3. オープンソース化に向けての議論

- 開発者用マニュアルの進捗
- ビルド用のマニュアルの進捗

4. ETの準備(パネル・説明員・ちらし・発表資料作成・発表者など)

5. 今年度の方向性について(予算ベース)

- ツールリリース(成果物としてJASA会員限定)→終了
- アンケート回収後/分析、今後の対応可能機能について議論/対応
- ET-WEST7/5,6→終了
- ET展示11/14,15,16
- オープンソース化に向けて議論/対応(ソースの整理、ルールの検討、アンケート内容検討など)

次回:10/31 @JASA

ツール公開の手順

1. 状態遷移表自動生成・作成ツールのモニター募集について

技術本部状態遷移設計研究WGでは、2014年度よりレガシーコードの蘇生術と題して既存のCソースコードから状態遷移表を自動で生成・作成するためのツールを研究してまいりました。

このたび、ようやくツール化を実現・公開するという運びとなり、会員の皆様に公開させていただき、当ツールの利用具合に関するコメント等を頂戴できればと考えております。

なお、当ツールは最終的にはオープンソース化ができればと思っております。多くの会員の試用をお待ちしております。

1. ツール名称 RE x STM(レックス エスティーエム) for C

2. 試用期間 お申込み後、2018年12月末まで

3. 試用申込み方法

① JASA会員専用サイトにサインインの上、「【会員限定】優待情報」⇒「【2018年度限定】「RE x STM forC」モニター申込フォーム」を選択すると、申込フォームにつながります。

② 申込みフォーム送信後、1週間以内にDL用のサイトアドレス・パスワードを送付します。

③ ダウンロード後、手順書にしたがい、ツールをインストールして下さい。

4. 試用アンケート

DL用のサイトアドレス・パスワードを発行後、30日を目安に、当WGよりヒアリング又はアンケートのご連絡をさせて頂きますので、ご協力の程、よろしくお願ひ致します。

オープンソース化について

• 定義

- オープンソースの定義は、ソフトウェアのソースコードへのアクセスが開かれている（ソースコードが公開されている）ことを示すのではなく、オープンソース・ソフトウェアの配布条件として完全に従うべき事項を示している。オープンソースの定義では、ソースコードを商用、非商用の目的を問わず利用、修正、頒布することを許し、それを利用する個人や団体の努力や利益を遮ることがないことが求められている。

• レベル

1. 現状あるのをすぐにGitHubなどを通じて公開(そのまま)
2. 現状あるものに対して、関数など説明書をつけて・ソースコードを整理して公開
3. 再利用性を重視してGitHubなどに2. をアップ、さらに不具合等もイシューとして残す
4. GitHubなどを利用せず、ソースだけを公開(Sciptを動かす・動作するレベル)

• 手順

1. 公開するべき範囲・目的・環境を明確にする
 - 誰がハッピーになるためのどこまでの公開なのか？
 - 環境は？Win10 64bit？
2. ライセンスの確認
 - Python・GCCなど
3. 公開ルール作成(2次の著作物・再配布についてなど)
4. パターン表作成(C→STM)

• 勉強会

- JASAのOSS活用WGから竹岡さんにお話しを伺つたらどうか？

項目	説明
再配布の自由	利用者は、オープンソースソフトウェアを販売・再配布できる
ソースコード	実行ファイルを配布・販売する者は、利用者に対してソースコードも入手できるようにしておかなければならない
派生ソフトウェア	第三者に配布した場合、配布を受けた者がソフトウェアを変更、あるいは派生ソフトウェアを作成、再配布するのを妨げてはいけない
作者のソースコードの完全性 (integrity)	再配布を受けた者が独自に修正や拡張をほどこした場合、それが元のソフトウェアと同一の名前・バージョン番号であった場合、ユーザーは混乱をきたす。これを避けるために、配布を行った者はソフトウェアの名前やバージョン番号を変更したり、変更部分を「パッチ」として公開することを要求できる
個人やグループに対する差別の禁止	特定の個人や団体に対して利用を制限することはできない。たとえば「共産主義国家では利用できない」といった制限を加えることはできない
利用する分野 (fields of endeavor) に対する差別の禁止	分野によって利用を制限することはできない。たとえば商用利用や軍事利用を制限する条項は加えられない
ライセンスの分配 (distribution)	再配布にあたって、何らかの追加ライセンスに同意することを求めてはならない。たとえば機密保持契約への同意を、配布を受けた条件としてはいけない
特定製品でのみ有効なライセンスの禁止	「ある特定の製品と組み合わせて使う場合のみ利用可能」といった制限を譲してはならない
ほかのソフトウェアを制限するライセンスの禁止	頒布にあたって、そのソフトウェアと一緒に配布されるほかのソフトウェアに制限を譲してはならない。たとえば同じ機体に含まれるソフトウェアがすべてオープンソースでなければならないといった制限はできない
ライセンスは技術中立的でなければならない	特定の技術に強く依存するものであってはいけない。たとえば、GUIを備えていなければ利用できないケースや、OSに依存するような項目は加えられない

2018年度定例会、第2金曜日、場所:大伝馬町 JASA会議室
 * 予定は仮決めであり、都合により変更あります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
定例会議日程	4/13 16:00 18:00	5/11 16:00 18:00	6/8 16:00 18:00	7/13 16:00 18:00	休み	9/14 16:00 18:00	10/12 16:00 18:00	11/9 16:00 18:00	12/14 16:00 18:00	1/11 16:00 18:00	2/8 16:00 18:00	3/8 16:00 18:00
活動報告						9/3						
ツール検証												
共同研究契約												
展示会				★	ET-WEST (7/5、7/6)			★	ET2017(11/14、15、16)			

JASA側のスタンス

- 2018年度予算のカット
 - 合宿費の減額:
 - 会議室料及び懇親会費のみ
 - 他の委員会/WGと横並びで、懇親会は、30%補助。会議室費用はJASA負担となりました。
 - お茶代カット
 - 共同研究費(必要かどうかを示す必要がある)
 - 目標達成レベルや機能
- 基本的には、1つのプロジェクトが終了したらWGを解散するという方向
- 懸念事項としては、Bulletin JASAにダウンロードを記載したものの、いつになつたらできるのかが明確にされていない。→しかし目標を達成し、満足のいくものを公開してもらいたい。

- ETの時に、プチハンズオンセミナーを開催する
 - Max5名ぐらいで各自にツールをインストールしてもらい、サンプルのソースコードから状態遷移表を生成するリバース体験をしてもらう。
 - 時間はMax1時間程度の入れ替わり制にする
 - PC持参もしくは、準備してもらう
- 手法を広めるためにWGを維持する
- せっかくツールをリリースするので、なんとか使ってもらえるようにする
- 状態モデルを書く場を提供することも重要

2017年度テーマ:BIG データとCEPと状態モデル

- 勉強会(ビッグデータ関連)
- 大阪大学大学院情報科学研究科
 - マルチメディア工学専攻
 - ビッグデータ工学
 - 鬼塚 真
- 首都大学東京
 - ソーシャルビッグデータ研究センター
- NICT統合ビッグデータ研究センター
 - センター長
 - 木俵 豊
- NTT Data
 - ソリューション事業部 副事業部長
 - 田中 一男

データ工学

- 東京電機大学 工学部 情報通信工学科 データ工学研究室 教授, 博士(工学)
 - 井上 潮
 - 〒120-8551 東京都足立区千住旭町5
 - E-mail: inoue [AT] c.dendai.ac.jp
 - →お断りされてしましました。汗
- 名古屋大学
 - 石川 佳治(いしかわ よしはる)
 - 吉田さんを通じて、聞いてもらっています。

やりたいこと(研究テーマ)

- ツール
 - 要求仕様書(ツールの全体像)
 - 設計書(フェーズ分けなど)
 - 不具合管理表
 - 広報活動の範囲など
 - IOT、AI、ロボット関連
 - AIでSTMは生成できる？
 - REからDTからSTMを生成
 - ツールの多言語対応
- 勉強会
 - 組込みソフトウェアの今後と状態遷移設計
 - IOTと状態遷移設計
 - ゲームと状態遷移設計(ポケモンGO!)
 - 状態遷移表の最適化/効率化